

Title	近代中国におけるギリシア文学：周作人と羅念生を中心に： (付：古代ギリシア文学翻訳年表)
Sub Title	Greek literature in modern China : Zhou Zuoren and Luo Niansheng
Author	根岸, 宗一郎(Negishi, Soichiro)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2006
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 言語・文化・コミュニケーション No.36 (2006.) ,p.59- 77
JaLC DOI	
Abstract	近代中国における古代ギリシア文学翻訳紹介の歴史に突出した業績を残したのは周作人 (1885-1967) と羅念生 (1904-1990) である。ギリシア文学翻訳紹介に先駆的役割を果たした周作人の翻訳作品は多くが長く絶版であったが, 1999 年からまとめて復刊され始めている。アポロドーロス『ギリシア神話』やエウリピデスの悲劇作品, アリストファネスの喜劇作品, ヘーローダースの擬曲やテオクリトスの牧歌, ルキアノスの作品集などが既刊である。一方, 一昨年 (2004 年) は羅念生の生誕百年にあたり, 個人全集と中国唯一の古典ギリシア語辞典『古希臘語漢語詞典』が出版された。全集にはギリシア三大悲劇詩人アイスキュロス, ソフォクレス, エウリピデスの作品, 喜劇詩人アリストファネスの作品, ホメロスの『イリアス』などが収録され, 古代ギリシア文学翻訳作品集とも言える。今, 中国では周作人と羅念生の翻訳作品の復刊により古代ギリシア文学作品が一斉に世に出回っているのである。本稿ではこの二大家の役割に着目しながら, 近代中国におけるギリシア文学翻訳紹介史のあり方を考察したい。
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032394-20060000-0059

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

近代中国におけるギリシア文学

——周作人と羅念生を中心に——（付：古代ギリシア文学翻訳年表）

根 岸 宗 一 郎

近代中国における古代ギリシア文学翻訳紹介の歴史に突出した業績を残したのは周作人（1885-1967）と羅念生（1904-1990）である。ギリシア文学翻訳紹介に先駆的役割を果たした周作人の翻訳作品は多くが長く絶版であったが、1999年からまとめて復刊され始めている。アポロドーロス『ギリシア神話』やエウリピデスの悲劇作品、アリストファネスの喜劇作品、ヘローダースの擬曲やテオクリトスの牧歌、ルキアノスの作品集などが既刊である。一方、一昨年（2004年）は羅念生の生誕百年にあたり、個人全集と中国唯一の古典ギリシア語辞典『古希臘語漢語詞典』が出版された¹⁾。全集にはギリシア三大悲劇詩人アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスの作品、喜劇詩人アリストファネスの作品、ホメロスの『イリアス』などが収録され、古代ギリシア文学翻訳作品集とも言える。今、中国では周作人と羅念生の翻訳作品の復刊により古代ギリシア文学作品が一斉に世に出回っているのである。本稿ではこの二大家の役割に着目しながら、近代中国におけるギリシア文学翻訳紹介史のあり方を考察したい。

1 清末における翻訳

中国において最初に翻訳紹介された古代ギリシア文学はイソップ寓話であり、明代にまで遡る²⁾。しかし、イソップ寓話以外の作品が翻訳紹介されるのは近代に入ってからである。

近代に入り外国文学の翻訳紹介が徐々に行われ始めるが、古代ギリシア文学で最初に翻訳紹介された作品は、やはりイソップ寓話であった。1840年に出版された『意拾喻言』（M. Robert Thom 訳、『広東報』）の後いくつも翻訳が現れ、1903年には林紘・嚴培南・嚴璩訳『伊索寓言』が上海商務印書館から出版される。この翻訳は名「翻訳家」林紘の名もあってか、『伊索寓言』という訳題を定着させることになった。

この間、イソップ寓話以外の作品の翻訳は見られず、ギリシアを舞台にした作品として

日本の矢野龍溪がテーベの興亡を描いた政治小説『経国美談』の翻訳³⁾、日本留学中の魯迅がスパルタのテルモピュライの戦いに取材した『斯巴達之魂』(スパルタの魂)⁴⁾がある。また、1906年3月にはラテン文学のアブレウス『クビドとプシケ』(『黄金のロバ』より)の翻訳がある⁵⁾。

1907年、商務印書館編訳所がギリシア神話を翻訳し、『希臘神話』の題で『説部叢書』中の一冊(第七集第9編)として上海商務印書館から出版する。『説部叢書』は翻訳名著集として著名であったことから、ギリシア神話はこの書によって広く中国で知られるようになったと考えられる。同書が基づいたのは James Baldwin “Old Greek stories” である。

同じ1907年には、日本留学中の魯迅・周作人兄弟がライダー・ハガード(H. Rider Haggard)とアンドリュー・ラング(Andrew Lang)の共著“World's desire”⁶⁾を翻訳した『紅星佚史』が上海商務印書館から出版される。これはホメロス『オデュッセイア』⁷⁾の後日談としてオデュッセウスの新たな冒険を描いた冒険小説である。1912年にはギリシア神話の翻訳として、Charles Kingsley “The heroes: Greek fairy tales for my children” を翻訳した『西方搜神記』⁸⁾(Ma Shao-liang 訳)が出る。1916年、林紓・陳家麟がJames Baldwin “Thirty more famous tales retold” を『秋燈譚屑』の題で翻訳する⁹⁾。この中の『織錦拒婚』がオデュッセウスの帰郷、『木馬靈蛇』がトロイアの滅亡(「トロイの木馬」のエピソード)を扱ったものである。

以上のように、清末にはイソップ寓話やギリシア神話の翻訳が現れるが、当時の翻訳は翻案と言うべきものであり、原作に忠実な翻訳は周作人により初めて行われる。また、1915年、胡適らの提唱で白話運動が開始され、翻訳文体も文言から白話へと移り始め、古代ギリシア文学の翻訳もまた新しい時代を迎えることになる。次に、初めて古代ギリシア文学の翻訳に本格的に取り組んだ、先駆者周作人の活動について見ていきたい。

2 周作人

中国文人の中で最も早く古典ギリシア語を習得し、古代ギリシア文学の翻訳紹介をライフワークの一つとすることになったのは、中国新文学運動の主導者の一人、周作人(1885-1967)であった。彼は、1906年から1911年に日本に留学し、1907年に兄魯迅とともにライダー・ハガードとアンドリュー・ラングの共著“World's desire”を『紅星佚史』の題で翻訳出版する。出版の際には割愛されたが、登場するギリシアやエジプトの神々等について詳細な注を作成したことから、ギリシア神話への関心の強さが窺える。

1909 年からは立教大学で古典ギリシア語を学習する。この時のギリシア語の授業担当者は立教大学総理でもあった宣教師 H・S・タッカーであった。周作人は初級文法から始め、中級のクセノフォン『アナバシス』やプラトンの対話文の講読も履修し、更に立教大学とつながる三一神学校でギリシア語聖書のルカ伝の講読にも顔を出していた¹⁰⁾。

周作人の回想によると、ギリシア語を学んだきっかけはギリシア語聖書を中国語に翻訳したいと思ったためだというのが、諸々の事情から翻訳は実現しなかった¹¹⁾。しかし、ギリシア語の学習は周作人に古代ギリシア文学への目を開かせることとなる。ギリシア語を学び始めた翌年 1910 年『古代希臘之小説』¹²⁾を故郷紹興の新聞『紹興公報』に寄稿する。二回に分けて発表されたこの文章は、それぞれロンゴス『ダフニスとクロエ』とルキアノス『本当の話』を紹介したものである。古代ギリシア文学の作品紹介として周作人が書いた最初の文章であると共に、中国における二作品の最初の紹介でもあった。

周作人は同じ 1910 年にヘーローダース『擬曲』を翻訳している。これは英訳からの重訳であり、帰国後 1914 年 10 月『中華小説界』第 10 期¹³⁾に『希臘擬曲二首』として発表された。周作人による古代ギリシア文学の翻訳として最初の作品であるばかりでなく、中国において古代ギリシア文学の作品として原作に忠実に翻訳紹介された最初の作品と言える。

ヘーローダース（紀元前 300 年頃～紀元前 250 年頃）はヘレニズム時代に活躍した作家であるが、伝記的事実はほとんど分らない。1891 年エジプトで発見されたパピルスに、ほぼ完全な形の擬曲 7 篇が含まれていたため、初めて現代に作品を知られるようになった作家である。オックスフォード大学やケンブリッジ大学の学者などによって作られたヘーローダース『擬曲』のギリシア語と英語対訳のテキストや英訳のテキストは、周作人留学中の日本でも入手可能であった。古代ギリシア喜劇の流れの中でヘーローダースが重要な作家であることは確かであるが、ホメロスの叙事詩やギリシア悲劇のような著名な作品よりも先に中国で紹介されることになった背景には、紹介者周作人の独特な選択眼が関係したと言えよう。

その後、周作人は 1914 年に『希臘女詩人』でサッフォー、『希臘之牧歌』でテオクリトス、1916 年に『荷馬史詩』でホメロス、というように古代ギリシアの著名な作家を紹介していく。そして、1917 年 4 月北京大学に招聘されると、同年 9 月から翌 1918 年 6 月までギリシア文学史、ローマ文学史の講義を行う。並行して行った中世から 18 世紀に至るヨーロッパ文学史とともに、講義録は 1918 年 10 月『欧州文学史』（北京大学叢書之三）として上海商務印書館から出版され、中国で最初のギリシア・ローマ・ヨーロッパの文学

史となった。

一方、1918年2月にテオクリトスの牧歌第10の翻訳を『古詩今訳』の題で『新青年』第4巻第2号に発表する。当時の中国は白話運動が起こり、文言から白話への移行が叫ばれる中、周作人は自身最初の白話作品としてギリシア文学の翻訳作品を選択したのである。このテオクリトス牧歌の翻訳は、周作人が文化人類学的神話学において強い影響を受けたアンドリュー・ラングによる英訳本¹⁴⁾からの重訳である。

周作人が自身のギリシア語力を生かして原典訳に取り組むのは、1924年夏、テオクリトス牧歌の翻訳が最初である¹⁵⁾。そしてこれが中国における最初のギリシア語原典からの翻訳となった。1925年9月には翻訳作品集『陀螺』（北大出版社）を出版し、テオクリトスの牧歌3首、ヘーローダースの擬曲2篇、ルキアノス『妓女たちの対話』から3篇、ロンゴス『ダフニスとクロエ』抄訳を収録した¹⁶⁾。その後も周作人は擬曲のような短い作品の翻訳紹介を続け、1934年1月、ヘーローダースの擬曲7篇とテオクリトスの牧歌5首をまとめ、『希臘擬曲』（上海商務印書館、中華教育文化基金董事会編訳委員会編集）として出版する。これが古典ギリシア語原典からの翻訳作品として中国最初の単行本となった。

以上から古代ギリシア文学の翻訳史において、英訳からの重訳による原作に忠実な翻訳、古代ギリシア語原典訳、そして原典訳の単行本化というすべてを周作人が最初に手がけたことが分かるのである。

3 世界文学全集編纂の中で

1930年前後になると外国文学の翻訳紹介が盛んになり、所謂世界文学全集がいくつも刊行される。その一環として古代ギリシア文学の翻訳も多く出版されるようになる。

著名な世界文学全集としては、鄭振鐸が主編となり主に1935年から36年にかけて出された『世界文庫』（1935年5月～1947年4月、上海生活書店）がある。ここには、エウリピデス『メディア』¹⁷⁾（趙家璧訳、1935年5月：英訳からの重訳）、プルタルコス『英雄伝』¹⁸⁾（胡仲持訳、2冊、1935年5月及び同7月）が収録されている。また、鄭振鐸は『世界文庫』刊行以前に、自ら『希臘神話』（二冊、1935年2月）を編訳し、同じ上海生活書店から出版している。

文学だけでなく、人文科学・社会科学・自然科学までも網羅したものに、千七百を超えるタイトルからなる『万有文庫』（王雲五等編、上海商務印書館）がある。1929年から1937年にかけて第一集約千タイトルと第二集約七百タイトルが出され、1939年には第

一、二集簡編として第一集と第二集からの抜粋約五百タイトルが出される。第1集には傅東華訳『オデュッセイア』¹⁹⁾(1929年10月:英訳からの重訳)の他、王力による概説書『希臘文学』・『羅馬文学』(共に1933年12月)、王希和によるホメロスの概説書『荷馬』(ホメロス:1930年10月²⁰⁾)が収録されている。また、同じ第1集には哲学では、アリストテレス『倫理学』²¹⁾(向達訳, 1933年), 『政治論』²²⁾(吳頌皋・吳旭初訳, 1931年), プラトン『国家』²³⁾(吳献書訳, 1929年)の翻訳, アリストテレス・プラトン・ソクラテスの概説書²⁴⁾が収録されている。

第二集には、ギリシア悲劇の翻訳として埃司克拉斯等著『希臘三大悲劇』(アイスキュロス等著:石璞訳, 1937年3月, 上下2冊)が収録されている。三大悲劇とはアイスキュロス『アガメムノン』, ソフォクレス『アンティゴネ』, エウリピデス『メディア』であり、すべて英訳からの重訳である。

この時期はまた青少年向けの文学全集も多く出された。『世界少年文学叢刊』(1927年5月~1949年11月, 上海開明書店)にはギリシア神話(Charles Kingsley “The heroes; Greek fairy tales”), 『イリアス』, 『イソップ寓話』が収録されている。また『世界少年文庫』(1931年10月~1937年3月, 上海世界書局)にも、ギリシア神話(Charles Kingsley “The heroes; Greek fairy tales”)が収録されている。

以上のように、世界文学全集編纂ブームの中で、古代ギリシア文学の翻訳紹介も増えたことが分かる。こうした中で、英訳等からの重訳ではなく、古典ギリシア語原典からの翻訳を行える人物、羅念生が現れる。先駆者周作人が古典ギリシア語原典からの翻訳でヘローダースとテオクリトスの作品集『希臘擬曲』を出した1934年、羅念生は留学先のギリシアから帰国した。羅念生は、周作人『希臘擬曲』を出版した中華教育文化基金(胡適が責任者)のために、1930年代後半からギリシア悲劇・喜劇の原典訳を次々に発表していく。そこで、次に羅念生について見てみたい。

4 羅念生

羅念生(1904-1990)はギリシア悲劇・喜劇翻訳紹介の中心的役割を果たした人物である。周作人を古典ギリシア語からの翻訳の先駆者とする、約20歳年下の羅念生は次世代の、より本格的な西洋古典学の専門家と言える。1922年から29年まで精華大学に学び、数学・自然科学を志したが、家計の関係もあり文学に転向した。英語の授業で読んだ英訳の『イリアス』をきっかけに古代ギリシア文学に関心を持ち、1929年秋、アメリカのオハイオ

州立大学英文学部に入學する。英米文学と古代ギリシア文学を学び、1931年夏に卒業。同年秋にコロンビア大学大学院に入學。翌32年にはコーネル大学大学院にも在籍し、ギリシア文学と考古学の授業を履修した。1933年夏、コーネル大学でエウリピデス『タウリケのイピゲネイア』（伊菲革涅亜在陶洛人里）を古典ギリシア語原典から翻訳する。²⁵⁾これが生涯最初の古典ギリシア語テキストからの翻訳である。同33年秋、ギリシアに赴き、アテネのアメリカ古典学院²⁶⁾に入學し、当時中国人として初めてギリシアでギリシア文学を学んだ。翌34年夏、一年の課程を学び終えて帰国した。同34年胡適から北平（北京）の中華教育文化基金会で西洋の名著翻訳を依頼される。以後この基金会の名著翻訳の一翼を担い、ギリシア悲劇・喜劇の翻訳を次々に発表していくことになる。1935年秋からは北京大学外文系講師として、翻訳・ギリシア語・ギリシア文明史・考古学を教えた。

羅念生がギリシア悲劇翻訳に本格的に取り組むのは1936年である。中華教育文化基金董事会編訳委員会編集の「希臘悲劇名著」としてギリシア悲劇の翻訳が次々に上海商務印書館から出版される。エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』（3月）、ソフォクレス『オイディプス王』（5月）アイスキュロス『ペルシア人』（10月）の三作である。²⁷⁾

ギリシア悲劇の翻訳はこれ以前、1924年に周作人が英語からの重訳でエウリピデス『トロイアの女』の一部を翻訳紹介した²⁸⁾他は、やはり英語からの重訳でアイスキュロス『縛られたプロメテウス』（楊晦訳、北京人文書局、1932年）とエウリピデス『メディア』（趙家璧訳、上海生活書店、1935年）があるのみであった。羅念生の翻訳は古典ギリシア語原典からのものであり、中国におけるギリシア悲劇の翻訳として質量ともに画期的なものであったといえる。

1937年7月に日中戦争が勃発すると、羅念生は北京を離れ香港経由で成都に至り、四川大学外文系講師となる。翌38年5月アリストファネス『雲』を「希臘喜劇名著」として出版、その後1940年3月にエウリピデス『メディア』、1943年6月エウリピデス『アルケステス』、1944年10月同『トロイアの女』、1947年8月アイスキュロス『プロメテウス』²⁹⁾と着実にギリシア悲劇の翻訳を発表し続ける。戦時にありながらギリシア悲劇・喜劇は、羅念生の手による質の高い翻訳を通して紹介されていったのである。

5 日中戦争後の周作人と羅念生

日中戦争前の二年間、周作人と羅念生は北京大学の同僚であった。羅念生は約20歳年上の大先輩である周作人を仰ぎ見るところがあったようで、アポロドーロス『ギリシア神

話』原典訳に取り組もうとする周作人について次のように述べている。

「聞くところによると知堂老人（周作人：筆者）はApollodorusの『書庫』を翻訳しているという。これはギリシア神話集である。彼の訳書が出て初めて私たちは真の『ギリシア神話』を手にしたことになるのである。およそ、『希臘擬曲』（商務印書館）を読んだ人で、知堂老人の訳筆を賞賛しない人はいないであろう。この神話集は素材も良く、訳書も更に美しさを加えるに違いあるまい。」（評『希臘神話』（鄭振鐸著）：『宇宙風』第20期，1936年7月1日）

1937年7月，日中戦争の勃発とともに羅念生は北京を離れ，周作人は北京残留を選択する。その後，成都で羅念生はギリシア悲劇・喜劇の翻訳を進め，北京に残留した周作人も古典ギリシア語からの翻訳に取り組んでいた。周作人は1944年10月『芸文雑誌』第2巻第10期からアポロドーロスの『ギリシア神話』を古典ギリシア語原典により翻訳発表し始める³⁰⁾。しかし，中途にして周作人は日中戦争終結とともに対日協力の罪で下獄する。

羅念生は自らの散文の中に「老人（周作人：筆者注）が心穏やかで，鉄格子の窓の下でも筆を折ることができずに，ギリシアの小品を沢山訳出することを願う。」³¹⁾と獄中の周作人を気遣う言葉を記している。

1949年8月，釈放されて北京に戻った周作人は，古代ギリシア文学と日本文学の翻訳を主な仕事とすることを決心する。先ず，1949年にサッフォーの伝記兼詩集 Arthur Weigall “Sappho of Lesbos : her life and times” を『希臘女詩人薩波』（ギリシアの女詩人サッフォー）の題で編訳し，1951年8月出版している。1950年には『希臘的神与英雄』（W. D. Rouse “Gods, heroes and men of ancient Greece”³²⁾ の翻訳）を翻訳発表する。1950年1月，当時の出版総署署長葉聖陶からギリシア語文献の翻訳作業を指示され，イソップ寓話を翻訳する。これ以後，周作人は政府の指示の下で翻訳作業に従事することになる。

1952年から周作人は羅念生とともに人民文学出版社のためギリシア悲劇・喜劇の翻訳に当たる。1954年11月『阿里斯芬喜劇集』（アリストファネス喜劇集）³³⁾，1957年から58年『欧里庇得斯悲劇集』全3巻（エウリピデス悲劇集）³⁴⁾を共訳で出版する。後者は所収14作品のうち13作品を周作人が翻訳している。羅念生は，別に個人訳として1958年9月『欧里庇得斯悲劇二種』³⁵⁾（エウリピデス悲劇二種），1961年11月『埃斯庫羅斯悲劇二種』³⁶⁾（アイスキュロス悲劇二種）と『索福克勒斯悲劇二種』³⁷⁾（ソフォクレス悲劇二種），1962年『詩学』（アリストテレス），更に1982年に『索福克勒斯悲劇二種』³⁸⁾（ソフォクレス悲劇二種）を人民文学出版社から出している。

周作人はエウリピデスの悲劇翻訳中に体調を崩して以来，ギリシア文学の翻訳から一時

遠ざかる。その後、1961年からルキアノス対話集の翻訳に着手し、1965年4月20日序文に当たる『關於盧奇安』を書き、翻訳を完成している。しかし周作人は1967年、文化大革命の中で世を去り、出版は1991年を待たねばならなかった。

一方、羅念生は文化大革命の中、一途にギリシア文学の翻訳を続ける。1978年からは周恩来の許可の下、「世界字典系列」の一つとして中国初の古典ギリシア語辞典の執筆を開始する。1984年、80歳の年に『古希臘語漢語詞典』を完成するが、出版は羅念生の生前には実現しなかった。2004年、生誕百年を記念してようやくこの『古希臘語漢語詞典』の出版が実現したのである。

古代ギリシア文学の翻訳紹介・研究は、『羅念生全集』序で編者の一人劉厚生も語るように担い手の少ない分野であった。周作人という先駆者と羅念生という突出した専門家により支えられてきたと言っても過言ではない。両者は人民共和国にギリシア悲劇・喜劇を共同で翻訳することになったが、これを除くと翻訳対象に自然に住み分けが為されていたと言える。

周作人は翻訳対象の選択に関して1934年に出版された『希臘擬曲』の序で次のように語っている。

「かつてエウリピデスの『トロイアの女』を読んで（訳したいという：筆者）願望が芽生えたが、未だにずっと心に懸けたままである。要するにこうした仕事はあまりに難しく、あまりに重大である。また、この頹廢の時代に生まれ、好みも関係して、私が個人的に好きなのはむしろアレクサンドリア時代のテオクリトスとヘーローダース、ローマ時代のルキアノスとロンゴスなのである。」

羅念生も周作人の『希臘擬曲』などを高く評価し、古代ギリシア文学の小品の翻訳を周作人の本領と見ていた。周作人がヘーローダース、テオクリトス、サッフォー、ルキアノスなどの作品やギリシア神話を主に翻訳したのに対し、羅念生はギリシア悲劇・喜劇やホメロスの翻訳を手がけた。両者の翻訳対象の住み分けにより、中国における古代ギリシア文学の翻訳紹介は幅を持つことになったのである。周作人が日本留学中に、西洋文学の原点である古代ギリシア文学を中国近代文学形成の重要な要素と考えてから一世紀近くが経とうとしている。中国社会の激動の中で、周作人と羅念生を中心に、古代ギリシア文学は着実に翻訳紹介されてきた。両者の翻訳が相前後して復刊された現在、ようやく原典訳で主要作品が出揃い、二大家の念願が実を結ぼうとしていると言えよう。

注

- 1) 『羅念生全集』（全10巻，上海人民出版社，2004年6月）。『古希臘語漢語詞典』（羅念生・水建馥編，商務印書館，2004年6月）。
- 2) 『況義』，金尼閣(Nicolas Trigaule)口訳，張養筆記，1625年，一卷，西安府。また利瑪竇(マテオ・リッチ)による翻訳もある。
- 3) 『経国美談』周宏業訳，『清議報』36-69冊(1900年2月20日—1901年1月11日)，単行本は1902年商務印書館。『経国美談新戯』謳歌変俗人李伯元訳『繡像小説』1-34期(1903年5月29日—1904年9月)。
- 4) 署名は白樹。『浙江潮』5-9期，1903年6月15日—11月8日。
- 5) 阿褒利武斯『愛与心』(心理倫理小説，『教育世界』丙午4-7期，120-123号，1906年3月—4月)。訳者未詳。
- 6) Henry Rider Haggard and Andrew Lang “World's desire”，(London: Longman, Green, 1890)
- 7) ホメロス『オデュッセイア』の翻訳は，『俄徳西冒険記』謝六逸編著(上海商務印書館，1926年6月)が最も早い。
- 8) 『西方搜神記』Ma Shao-liang 訳(上海，広学会，1912年)
- 9) 包魯烏因(著)，林紓・陳家麟(訳)『秋灯譚屑』(上海商務印書館，1916年4月)。所収の『馬靈蛇』は『小説月報』7巻2号(1916年2月)初出。
- 10) 拙論『周作人とH・S・タッカー——立教大学におけるギリシア語学習とギリシア文学・キリスト教との出会い』(『中国研究月報』638号，2001.4)参照。
- 11) 周作人『希臘擬曲』(上海商務印書館，1934.1)序参照。
- 12) 『紹興公報』1910年7月31日，8月1日。
- 13) 『周作人研究資料』(張菊香・張鉄榮編，天津人民出版社，1986年)以来，「1916年10月」とされているが，1914年10月の誤りである。
- 14) “Theocritus, Bion and Moschus”，rendered into English prose with an introductory essay, by A. Lang. London, Macmillan, 1889.
- 15) 諦阿克列多思『情歌』『農夫』『秘語』(テオクリトス牧歌第3，第10，第27)。『希臘牧歌抄』(『駱駝』1926年7月)所収。“The Greek bucolic poets” with an English translation by J. M. Edmonds (The Loeb classical library: London: William Heinemann, 1912)に拠る。
- 16) 諦阿克列多思『情歌』『農夫』『秘語』(テオクリトス牧歌第3，第10，第27)，海羅達思『媒婆』『塾師』(ヘーローダース『擬曲』)，路吉阿諾ス『大言』『兵士』『魔術』(ルキアノス『妓女たちの対話』)，朗戈ス『苦甜』『断片』(ロンゴス『ダフニスとクロエ』)。
- 17) 優立辟諦斯(著)趙家璧(訳)『美狄亞』(上海生活書店，1935年5月。英訳からの重訳)
- 18) 波盧塔(著)胡仲持(訳)『希臘羅馬偉人伝』(上海生活書店，1935年5月，世界文庫)。波盧塔(著)胡仲持(訳)『綸繆拉斯』(希臘羅馬偉人伝之二，上海生活書店，1935年7月，世界文庫)
- 19) 荷馬(著)傅東華(訳)『奧德賽』(上海商務印書館，1929年10月，万有文庫第1集及1，2集簡編)
- 20) 初出は1924年3月，上海商務印書館，『百科小叢書第46種』。
- 21) 亜里士多德(著)向達(訳)『亜里士多德倫理学十卷附録一卷』(上海商務印書館，1933年)
- 22) 亜里士多德(著)吳頌皋・吳旭初(訳)『政治論』(全4冊，上海商務印書館，1931年)

- 23) 柏拉図 (著) 吳猷書 (訳)『理想国』(全5冊, 上海商務印書館, 1929年)
- 24) 範寿康 (著)『亜理斯多德』(1930年10月), 範寿康 (著)『柏拉図』(1930年10月), 黄方剛 (著)『蘇格拉底』(1931年4月)。
- 25) “Euripides Iphigenia in Tauris”, edited with an introduction, notes, and a critical appendix by William Nickerson Bates. (New York; Cincinnati; Chicago: American Book Company, 1904. Greek series for colleges and schools) に拠る。訳序によると翻訳の際にはコーネル大学のL. Jones Horace教授に疑問点などを教えてもらったという。
- 26) 羅念生『雅典城美国古典学院』(『希臘漫話』所収)によると、アメリカ古典学院はアメリカの大学からの紹介状があれば入学でき、考古学の基礎や古典及び現代ギリシア語、その他の現代ヨーロッパ諸言語を学習できた。当時、ヨーロッパのいくつかの国もこうした古典学院をアテネに開設していたという。
- 27) 基づいたテキストは以下の通り。エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』: 注25と同じ。
ソフォクレス『オイディプス王』: “The Oedipus Tyrannus”; with critical notes, commentary, and translation in English prose by Sir Richard Claverhouse Jebb (2nd ed., Cambridge: University Press, 1887)
アイスキュロス『ペルシア人』: “The Persae of Aeschylus”, edited with introduction notes and a map by A.O. Prickard. (London: Macmillan, 1879. Macmillan’s school class books)
- 28) 周作人『忒羅亜の婦女』(「小説月報」15巻8号, 1924年8月)。“The Trojan women of Euripides” (translated into English rhyming verse with explanatory notes by Gilbert Murray: London: Allen & Unwin, 1905) から数節を抜粋して翻訳している。
- 29) 基づいたテキストは以下の通り。
アリストファネス『雲』: Aristophanes “Clouds”; edited with introduction and notes by Lewis Leaming Forman. (New York: American Book Company, 1915. Greek series for colleges and schools)
Aristophanes “The Acharnians; The knights; The clouds; The wasps”; with the English translation of Benjamin Bickley Rogers (The Loeb classical library; 178. Aristophanes: in three volumes; 1) (Cambridge, Mass.: Harvard University Press, London: William Heinemann, 1924)
エウリピデス『メデシア』: “The Medea of Euripides”, edited by Mortimer Lamson Earle. New York: American Book Company, 1904. Greek series for colleges and schools)
エウリピデス『アルケステイス』: Euripides “Alcestis”; with introduction and notes by Charles Stanger Jerram. (Oxford: Clarendon Press, 1880. Clarendon press series)
エウリピデス『トロイアの女』: “The Troades of Euripides”, with revised text and notes by Robert Yelverton Tyrrell. (London: Macmillan, 1921. classical series)
アイスキュロス『プロメテウス』: Aeschylus “Prometheus”; edited by Joseph Edward Harry. (New York, Cincinnati [etc.]: American book company, 1905)
“the Prometheus vinctus of Aeschylus”; edited by E. E. Sikes and J. B. W. Wilson. (London: Macmillan, 1912)
- 30) Apollodorus “The library”, with an English translation by Sir James George Frazer (The Loeb classical library; 121–122: London: William Heinemann. 1921) に拠る。『芸文雑誌』2巻10–12

期（1994 年 10-12 月）に掲載。

- 31) 羅念生『談偉大作品』（『青年界』新五卷 1 期，総 77 期，1948 年 2 月）。
- 32) W. D. Rouse “Gods, heroes and men of ancient Greece” (1934). 勞斯（著）周啓明（周作人）（訳）『希臘の神与英雄』（文化生活出版社、1850 年 11 月）は 1958 年 1 月に勞斯（著）周啓明（周作人）（訳）『希臘神話故事』の題で天津人民出版社から再版されている。
- 33) アリストファネス『アカルナイの人々』『騎士』『雲』『鳥』『福の神』：阿里斯托芬（著）周啓明（周作人）・羅念生（訳）『阿里斯托芬喜劇集』（阿卡奈人・騎士・雲・鳥・財神）（人民文学出版社、1954.11）
- 34) エウリピデス『ヒッポリュトス』『ヘラクレスの子供たち』『アンドロマケ』『ヘカベ』：欧里庇得斯（著）周啓明（周作人）・羅念生（訳）『欧里庇得斯悲劇集（一）』（希波呂托斯・赫刺克勒斯的兒女・安德洛瑪刻・赫卡拍）（人民文学出版社，1957.2）。エウリピデス『救いを求める女たち』『ヘレネ』『オレステス』『ヘラクレス』：欧里庇得斯（著）周啓明（周作人）・羅念生（訳）『欧里庇得斯悲劇集（二）』（請願的婦女・海倫・俄羅斯忒斯・瘋狂的赫刺克勒斯）（人民文学出版社，1957.11）。エウリピデス『イオン』『エレクトラ』『フェニキアの女たち』『アウリスのイピゲネイア』『キュクロプス』『バッカスの伴侶』：欧里庇得斯（著）周啓明（周作人）・羅念生（訳）『欧里庇得斯悲劇集（三）』（伊翁・厄勒克特拉・腓尼基婦女・伊菲革涅亞在奧利斯・円目巨人・酒神の伴侶）（人民文学出版社，1958.9）
- 35) エウリピデス『メディア』『トロイアの女』：欧里庇得斯（著）羅念生（訳）『欧里庇得斯悲劇二種』（美狄亞・特洛亞婦女）（人民文学出版社，1958.9）
- 36) アイスキュロス『プロメテウス』『アガメムノン』：埃斯庫羅斯（著）羅念生（訳）『埃斯庫羅斯悲劇二種』（普羅米修斯・阿伽門農，人民文学出版社，1961.11）
- 37) ソフォクレス『アンティゴネ』『オイディプス王』：索福克勒斯（著）羅念生（訳）『索福克勒斯悲劇二種』（安提戈涅・俄狄浦斯王，人民文学出版社，1961.11）
- 38) ソフォクレス『トラキスの女たち』『コロノスのオイディプス』：索福克勒斯（著）羅念生（訳）『索福克勒斯悲劇二種』（特刺喀斯少女・俄狄浦斯在科羅諾斯）（人民文学出版社，1983）

【ギリシア文学翻訳年表】（初稿）

- | | |
|------|--|
| 1840 | イソップ寓話：M. Robert Thom（訳）『意拾喻言』（『広東報』） |
| 1876 | イソップ寓話：香港英華書院（訳）『漢訳伊蘇普譚』（東京，青山清吉） |
| 1878 | イソップ寓話：『意拾喻言』（『万国公報』第 10 年 499 号-第 11 年 517 号） |
| 1879 | イソップ寓話：中田敬義（訳）『伊蘇普喻言』（北京官話，東京） |
| 1885 | イソップ寓話：『伊娑菩喻言』（施医院刻本） |
| 1888 | イソップ寓話：『海国妙喻』（天津時報館代印） |
| 1898 | イソップ寓話：梅侶女史（訳）『海国妙喻』（『無錫白話報』1-24 期） |
| 1902 | イソップ寓話：黄海之編（訳）『泰西寓言』（上海） |

- 1903.5 イソップ寓話：張赤山（訳）『伊娑菩喻言』（香港文裕堂）
- 1903.5 イソップ寓話：林紓・嚴培南・嚴璩（訳）『伊索寓言』（上海商務印書館）
- 1906.3-4 アプレイウス『クビドとプシケ』（『黄金のロバ』より）：阿裏利武斯（著）訳者未詳『愛与心』（心理論理小説、『教育世界』丙午4-7期，120-123号）
- 1907.6 ギリシア神話：巴徳文（著）商務印書館編訳所（訳）『希臘神話』（上海商務印書館，説部叢書第7集第9編，James Baldwin “Old Greek stories” の訳）
- 1907.11 “World’s desire”：魯迅・周作人（訳）『紅星佚史』（上海商務印書館 Henry Rider Haggard, Andrew Lang “World’s desire” の訳）
- 1912 ギリシア神話：Ma Shao-liang（訳）『西方搜神記』（上海広学会，Charles Kingsley “The heroes; Greek fairy tales” の訳）
- 1914.10 ヘーローダース擬曲：周作人（訳）『希臘擬曲二首』（『中華小説界』10期）
- 1915 サッフォー詩歌，テオクリトス牧歌他：周作人（訳述）『異域文談』（墨潤堂書坊，「希臘之小説一」「希臘之小説二」「希臘女詩人」「希臘之牧歌」）
- 1915.3 イソップ寓話：孫毓修（編訳）『伊索寓言演義』（上海商務印書館，演義叢書）
- 1918.2 テオクリトス牧歌第10：周作人（訳）『古詩今訳』（『新青年』4巻2号）
- 1921.10-11 ルキアノス『妓女たちの対話』より：路吉亜諾思（著）周作人（訳）『大言』『兵士』『魔術』（『晨報副刊』1921.10.28, 11.6, 11.14）
- 1921.11-12 テオクリトス牧歌第3，第10：台阿克利多思（著）周作人（訳）『情歌』『割稻的人』（『晨報副刊』1921.11.27, 12.4）
- 1921.12 ロンゴス『ダフニスとクロエ』（抄訳）：朗戈思（著）周作人（訳）『苦甜』（『晨報副刊』1921.12.11）
- 1922.1 ヘーローダース擬曲：海羅達思（著）周作人（訳）『媒婆』（『晨報副刊』1922.1.1）
- 1922.6 シモニデス，プラトン詩歌：西摩尼台思，柏拉図（著）周作人（訳）『論小詩』（『民国日報』1922.6.22）
- 1922.11 ルキアノス『冥土行または僧主』：路吉亜諾思（著）周作人（訳）『冥土旅行』（『小説月報』第13巻第11号）
- 1923.7 シモニデス，サッフォー，プラトン，メレアグロス等の詩歌（『ギリシア詞華集』より）：西蒙尼台斯，薩普福，柏拉図，美勒亜格羅思（著）周作人（訳）『希臘的小詩』（『晨報・文学旬刊』第5号 1923.7.11）
- 1923.7 イソップ寓話（「田舎の鼠と都会の鼠」）：伊索（著）周作人（訳）『鄉間的老鼠』

- 和京都の老鼠』（『晨报副刊』1923.7.28）
- 1924.5-6 『ギリシア詞華集』より：周作人（訳）『幾首古詩的大意』『幾首希臘古詩』（『晨报副刊』1924.5.25, 6.22）
- 1924.8 エウリピデス『トロイアの女』（抄訳）：欧里庇得斯（著）周作人（訳）『忒羅亜的婦人』（『小説月報』第15巻第8号）
- 1924.11 ロングス『ダフニスとクロエ』（抄訳）：郎戈思（著）周作人（訳）『古希臘小説断片』（『晨报・文学旬刊』第52号1924.11.5）
- 1924.11 『ギリシア詞華集』より：周作人（訳）『希臘諷刺小詩』（『語絲』第2期）
- 1925.1 ヘーローダース擬曲：海羅達思（著）周作人（訳）『密談』（『語絲』第11期）
- 1925.3 サッフォー詩歌：薩福（著）周作人（訳）『贈所歡』（『語絲』第20期）
- 1925.4 テオクリトス牧歌第27：諦阿克列多思（著）周作人（訳）『私語』（『語絲』第24期）
- 1925.9 テオクリトス牧歌，ヘーローダース擬曲，ルキアノス『妓女たちの対話』，ロングス『ダフニスとクロエ』他：周作人（訳）『陀螺』（新潮社，希臘小篇：牧歌三篇（「情歌」「農夫」「私語」），擬曲二篇（「媒婆」「密談」），対話（「大言」「兵士」「魔術」），小説五節（「苦甜」「断片四則」），古詩二十一首。他にフランス・日本の小篇も収録。）
- 1926.3 プラトン詩歌：柏拉図（著）周作人（訳）『戲訳柏拉図詩』（『語絲』第68期）
- 1926.6 ホメロス『オデュッセイア』：謝六逸編（著）『俄德西冒險記』（上海商務印書館，世界少年文学選集）
- 1926.7 テオクリトス牧歌第3，第10，第27：諦阿克列多思（著）周作人（訳）『希臘牧歌鈔』（『情歌』『農夫』『私語』：『駱駝』1926.7）
- 1926.11 テオクリトス牧歌：德阿克利多思（著）周作人（訳）『古希臘擬曲之一』（孔德月刊）第2期）
- 1927.2 ルキアノス『冥界行または僭主』：路吉亜諸思（著）周作人（訳）『冥土旅行』（北新書局）
- 1927.5 アナクレオン，カッリマコス等詩歌：周作人（訳）『閑話拾遺三四，古詩』（『語絲』133期）
- 1927.9 メレアグロス，アスクレピアデス，カッリマコス等詩歌：美勒亜格羅思，亜思克勒比亞台斯，加利瑪科斯（著）周作人（訳）『希臘情詩六首』（『世界日報』第五期，1927.9.23）

- 1927.12 メレアグロス等詩歌：美勒亜格羅思（著）周作人（訳）『読本拔萃』（開明書店，『談龍集』所収）
- 1928.11 サッフォー詩歌：薩普福（著）周作人（訳）『贈所歆』（『燕大月刊』第3巻第1，2期）
- 1928.12 ギリシア神話：肯斯黎（著）清晨（訳）『希臘神話故事（一）』（上海春潮書局，Charles Kingsley “The heroes; Greek fairy tales” の訳）
- 1929.1 イソップ寓話：伊所伯（著）汪原放（訳）『伊所伯的寓言』（上海亜東書店，G. F. Townsend による英訳本の重訳）
- 1929.3 ギリシア神話：鄭振鐸（編）『恋愛的故事（希臘羅馬的神話与伝説之三）』（上海商務印書館，文学研究会叢書）
- 1929.4 ホメロス『イリアス』：荷馬（著）高歌（訳述）『依里亚特』（上海中華書局，学生文学叢書）
- 1929.4 オウィディウス『アルス・アマトリア』：沃維提烏思（著）戴望舒（訳注）『愛経』（上海水沫書店）
- 1929.5 ホメロス『イリアス』：荷馬（著）謝六逸（訳）『伊利亞特的故事』（上海開明書店，世界少年文学叢刊：名著述略1）
- 1929.10 ホメロス『オデュッセイア』：荷馬（著）傅東華（訳）『奥德賽』（上海商務印書館，万有文庫第1集及1，2集簡編）
- 1930.1 ホメロス『オデュッセイア』：荷馬（著）高歌（訳述）『奥德賽』（上海中華書局，学生文学叢書）
- 1930.2 ギリシア神話：法郎錫蘭（著）海鷗（訳）『神与英雄』（上海広益書局，R. E. Francillon “Gods and Heroes” の訳）
- 1930.4 ルキアノス『葬式について』：路吉亜諾斯（著）周作人（訳）『論居喪』（『未名』終刊号）
- 1930.7-9 ヘーローダース擬曲：海羅達思（著）周作人（訳）『妬婦』『塾師』『楽戸』『上廟』（『駱駝草』第10,12,16,20期）
- 1931.4 キケロ文集：西塞羅（著）梁実秋（訳）『西塞羅文録』（上海商務印書館，万有文庫第1集）
- 1931.10 ギリシア神話：格伯（著）廖凡（訳）『希臘民族的故事』（上海中華書局，Geurber 著の訳）
- 1931 アリストテレス『政治学』：亜里士多德（著）吳頌皋・吳旭初（訳）『政治論』（全

- 4冊, 上海商務印書館, 万有文庫)
- 1932.4 ギリシア神話: 謝頌羔 (訳) 『十二件難事』 (上海開明書店)
- 1932.8 アISKYUROS 『縛られたプロメテウス』: エ斯基ラ (著) 楊晦 (訳) 『被幽囚の普羅密修士』 (北平人文書局)
- 1932.8 イソップ寓話: 伊索 (著) 孫立源 (訳) 『伊索寓言』 (上海開明書店, 世界少年文学叢刊: 寓言 4, J. H. Stickney による英訳本の重訳)
- 1932.8 ギリシア神話: 金斯萊 (著) 王永棠 (訳) 『英雄』 (北平人文書店, Charles Kingsley “The heroes; Greek fairy tales” の訳)
- 1932.10 ギリシア神話: 胡伯琴 (編訳) 『希臘的故事』 (上海新中国書局)
- 1933.2 ギリシア神話: 葉芝 (訳) 『人魚姑娘』 (上海神州国光社, 少年叢書: 神話 1)
- 1933 アリストテレス 『倫理学』: 亜里士多德 (著) 向達 (訳) 『亜里士多德倫理学十卷附録一卷』 (上海商務印書館, 万有文庫)
- 1934.1 ヘーローダース擬曲, テオクリトス牧歌: 海羅達思, 諦阿克里多斯 (著) 周作人 (訳) 『希臘擬曲』 (上海商務印書館, 中華教育文化基金董事会編訳委員会編輯)
- 1934.9 ギリシア神話: 郭源新 (著) 『取火者の逮捕』 (上海生活書店, 創作文庫 8)
- 1935.2 ギリシア神話: 鄭振鐸 (編著) 『希臘神話』 上下冊 (上海生活書店)
- 1935.5 エウリピデス 『メディア』: 優立辟諦斯 (著) 趙家璧 (訳) 『美狄亞』 (上海生活書店, 世界文庫)
- 1935.5 プルタルコス 『英雄伝』: 波盧塔 (著) 胡仲持 (訳) 『希臘羅馬偉人伝』 (上海生活書店, 世界文庫)
- 1935.6 イソップ寓話: 伊索 (著) 沈志堅 (編訳) 『伊索寓言選』 (上海新中国書局)
- 1935.7 プルタルコス 『英雄伝』: 波盧塔 (著) 胡仲持 (訳) 『綸繆拉斯』 (希臘羅馬偉人伝之二, 上海生活書店, 世界文庫)
- 1935.9 イソップ寓話: 伊索 (著) 呂金録 (選訳) 『伊索寓言』 (上海商務印書館, 民衆基本叢書第 1 集寓言類)
- 1935.10 ウェルギリウス: 施鰲存 (著) 『魏琪爾』 (上海商務印書館, 百科小叢書)
- 1936.3 エウリピデス 『タウリケのイピゲネイア』: 攸立匹得斯 (著) 羅念生 (訳) 『在陶埒人里的依斐格納亞』 (上海商務印書館, 希臘悲劇名著: 中華教育文化基金董事会編訳委員会編輯)
- 1936.3 イソップ寓話: 伊索 (著) 許敬言 (訳) 『伊索寓言選』 (上海商務印書館)

- 1936.5 ソフォクレス『オイディプス王』:索縛克勒斯(著)羅念生(訳)『窩狄浦斯王』(上海商務印書館,希臘悲劇名著:中華教育文化基金董事会編訳委員会編輯)
- 1936.5 イソップ寓話:伊索(著)林華(訳)『伊索寓言』(上海啓明書局,世界文学名著)
- 1936.10 アイスキュロス『ペルシア人』:噉斯苦羅斯(著)羅念生(訳)『波斯人』(上海商務印書館,希臘悲劇名著:中華教育文化基金董事会編訳委員会編輯)
- 1937.1 ギリシア神話:鮑爾溫(著)陳君文,楊若洲(訳)『希臘故事集』(上海啓明書局,世界故事名著集,James Baldwin “Old Greek stories”の訳)
- 1937.3 アイスキュロス『アガメムノン』,ソフォクレス『アンティゴネ』,エウリピデス『メディア』:埃司克拉斯,沙福克里斯,尤里比底斯(著)石璞(訳)『希臘三大悲劇(上,下)』(万有文庫第2集)
- 1938.3 エウリピデス『トロイアの女』:優力彼德斯(著)陳国樺(訳)『特洛国的婦人』(詩歌出版社)
- 1938.5 アリストファネス『雲』:阿里斯托法涅斯(著)羅念生(訳)『雲』(上海商務印書館,希臘喜劇名著:中華教育文化基金董事会編訳委員会編輯)
- 1940.3 エウリピデス『メディア』:攸里辟得斯(著)羅念生(訳)『美狄亞』(長沙商務印書館,希臘悲劇名著:中華教育文化基金董事会編訳委員会編輯)
- 1941.8 ギリシア神話:鮑爾溫(著)陳君文,楊若洲(訳)『齊薩斯歷險記(希臘故事集)』(上海啓明書局,James Baldwin “Old Greek stories”の訳)
- 1942.1 ギリシア神話:加因(著)『偷火者的故事』(桂林文化供給社,少年文庫)
- 1942 エウリピデス『トロイアの女』:攸利彼提斯(著)陳国樺(訳)『特洛国的婦人』(成都華西大学大学院,華西大学文学院叢刊4)
- 1943.6 エウリピデス『アルケステリス』:攸里辟得斯(著)羅念生(訳)『阿爾刻提斯』(重慶古今出版社,古今文芸名著訳叢,馬耳主編)
- 1943.7 ホメロス『イリアス』:荷馬(著)徐遲(訳)『依利阿德選訳』(重慶美学出版社,海浜小集3)
- 1944.10 エウリピデス『トロイアの女』:悠立匹得斯(著)羅念生(訳)『特羅亞婦女』(重慶商務印書館,希臘悲劇名著:中華教育文化基金董事会編訳委員会編輯)
- 1944.10-12 アポロドーロス『ギリシア神話』:亜坡羅陀洛斯(著)周作人(訳)『希臘神話』(『芸文雜誌』2卷10-12期)
- 1945.7 プラトン對話作品:柏拉図(著)林苑文(訳)『愛的對話』(重慶国際文化服務

- 社, 芸術思想小叢書 第1種)
- 1946.9 アISKYロス『アガメムノン』:愛斯古里斯(著)葉君健(訳)『亜格曼農王』
(上海文化生活出版社, 訳文叢書)
- 1947.8 アISKYロス『プロメテウス』:埃斯庫羅斯(著)羅念生(訳)『普羅密修斯』
(上海商務印書館希臘悲劇名著:中華教育文化基金董事会編訳委員会編輯)
- 1947.10 イソップ寓話:伊索(著)許敬言(訳)『伊索寓言選』(上海商務印書館, 新小
学文庫第1集)
- 1948.10 ギリシア神話:柯克斯(著)易紹蘭(訳)『希臘神話摺華』(上海中国文化服務
社, 青年文庫, C. W. Cox “Tales of Gods and Heroes”)
- 1950.11 ギリシア神話:(英)勞斯(著)周遐寿(周作人)(訳)『希臘的神与英雄』(文
化生活出版社, William D. Rouse “Gods, heroes and men of ancient Greece” の訳)
- 1951.8 サッフォー詩歌:(英)韋格爾(著)周遐寿(周作人)(訳)『希臘女詩人薩波』(上
海出版公司, Arthur Weigall “Sappho of Lesbos: her life and times” の訳)
- 1954.11 アリストファネス『アカルナイの人々』『騎士』『雲』『鳥』『福の神』:阿里斯
托芬(著)周啓明(周作人)・羅念生(訳)『阿里斯托芬喜劇集』(阿卡奈人・
騎士・雲・鳥・財神)(人民文学出版社)
- 1955.2 イソップ寓話:伊索(著)周啓明(周作人)(訳)『伊索寓言』(人民文学出版社)
- 1955.3 イソップ寓話:伊索(著)周啓明(周作人)(訳)『伊索寓言選』(人民文学出
版社, 文学初歩読物)
- 1957.2 エウリピデス『ヒッポリュトス』『ヘラクレスの子供たち』『アンドロマケ』『ヘ
カベ』:欧里庇得斯(著)周啓明(周作人)・羅念生(訳)『欧里庇得斯悲劇集(一)』
(希波呂托斯・赫刺克勒斯的兒女・安德洛瑪刻・赫卡拍)(人民文学出版社)
- 1957.11 エウリピデス『救いを求める女たち』『ヘレネ』『オレステス』『ヘラクレス』:
欧里庇得斯(著)周啓明(周作人)・羅念生(訳)『欧里庇得斯悲劇集(二)』(請
願的婦女・海倫・俄羅斯忒斯・瘋狂的赫刺克勒斯)(人民文学出版社)
- 1957 羅念生(著)『古希臘拉丁專名訳名表』:「西方語文」雜誌第一卷2期
- 1958.1 ギリシア神話:(英)勞斯(著)周啓明(周作人)(訳)『希臘神話故事』(天津
人民出版社)
- 1958.9 エウリピデス『メディア』『トロイアの女』:欧里庇得斯(著)羅念生(訳)『欧
里庇得斯悲劇二種』(美狄亞・特洛亞婦女)(人民文学出版社)
- 1958.9 エウリピデス『イオン』『エレクトラ』『フェニキアの女たち』『アウリスのイ

- ピグネイア』『キュクロプス』:欧里庇得斯(著)周啓明(周作人)・羅念生(訳)『欧里庇得斯悲劇集(三)』(伊翁・厄勒克特拉・腓尼基婦女・伊菲革涅亜在奧利斯・円目巨人)(人民文学出版社)
- 1958.10 アリストファネス『福の神』:阿里斯多芬(著)周啓明(周作人)(訳)『財神(阿里斯多芬喜劇集)』(香港中流出版社)
- 1959 アリストファネス:阿里斯多芬(著)周啓明(周作人)・羅念生(訳)『阿里斯托芬喜劇之一』(香港中流出版社)
- 1961.11 アイスキュロス『プロメテウス』『アガメムノン』:埃斯庫羅斯(著)羅念生(訳)『埃斯庫羅斯悲劇二種』(人民文学出版社)
- 1961.11 ソフォクレス『アンティゴネ』『オイディプス王』:索福克勒斯(著)羅念生(訳)『索福克勒斯悲劇二種』(人民文学出版社)
- 1981 イソップ寓話:伊索(著)羅念生, 王煥文, 陳洪文, 馮文華(訳)『伊索寓言』(人民文学出版社)
- 1981 アリストファネス『蜂』『女たちだけの祭り』:阿里斯托芬(著)羅念生(訳)『阿里斯托芬喜劇二種』(馬蜂・地母節扶助)(湖南人民出版社)
- 1983 ソフォクレス『トラキスの女たち』『コロノスのオイディプス』:索福克勒斯(著)羅念生(訳)『索福克勒斯悲劇二種』(特刺喀斯少女・俄狄浦斯在科羅諾斯)(人民文学出版社)
- 1991 ルキアノス対話作品集:盧奇安(著)周作人(訳)『盧奇安対話集』(人民文学出版社)
- 1999.1 イソップ寓話:伊索(著)周作人(訳)『伊索寓言』(中国對外翻譯出版公司, 苦雨齋訳叢)
- 1999.1 アポロドーロス『ギリシア神話』:阿波羅多洛斯(著)周作人(訳)『希臘神話』(中国對外翻譯出版公司, 苦雨齋訳叢)
- 1999.1 アリストファネス『福の神』, ヘーローダース擬曲, テオクリトス牧歌:阿里斯托芬, 海羅達思, 諦阿克列多思(著)周作人(訳)『財神・希臘擬曲』(中国對外翻譯出版公司, 苦雨齋訳叢)
- 2003.1 エウリピデス悲劇集:欧里庇得斯(著)周作人(訳)『欧里庇得斯悲劇集』(三冊, 中国對外翻譯出版公司, 苦雨齋訳叢)
- 2003.1 ルキアノス対話作品集:盧奇安(著)周作人(訳)『盧奇安対話集』(中国對外翻譯出版公司, 苦雨齋訳叢)

- 2004.6 『羅念生全集』（全10巻，上海人民出版社）（アイスキュロス，ソフォクレス，エウリピデスの悲劇作品，アリストファネスの喜劇作品，アリストテレス『詩学』『修辞学』，ホメロス『イリアス』等を含む。）
- 2004.6 羅念生，水建馥編『古希臘語漢語詞典』（商務印書館）

* 本年表は樽本照雄編『清末民初小説年表』（清末小説研究会，1999年），北京図書館編『民国時期総書目（1911-1949）・外国文学』（書目文献出版社，1987年），上海図書館編『中国近代現代叢書目録』（上海図書館，1979年），張菊華・張鉄榮編『周作人研究資料』（天津人民出版社，1986年），孫郁・黄喬生主編『回望周作人・資料索引』（河南大学出版社，2004年），『羅念生全集』全10巻（上海人民出版社，2004年）等に基づいて作成した。